高校生がハーブ栽培を体験

大津校舎 職場体験 宇津賀の棚田を訪問

大津緑洋大津校舎の2年生が9日、市内外の企業や学校、市役所、病院、図書館などを職場体験学習で訪問。そのうち15人が油谷後畑の棚田で無農薬ハーブの栽培に取り組んでいる「ゆや棚田景観保存会」（大田寛治理事長）を訪れ、花摘みやハーブティーづくりに挑戦した。

同校舎の職場体験はNPO法人つなぐが主同法人のスタッフ昨年7月、同校のコミュニティ・スクール推進員に就任したことをきっかけに、同キャンパスと長門の地で活躍する団体や職をつなげる「長門しいキャリア教育プンエクト」を行っていて昨年は10月、温泉や際交流、林業、養鶏、命開発、災害対策などをテーマに市内各地の企業や団体を訪問してフィールドワークに取り組んだ（既報）。

今回の職場体験も「総合的な探求の時間」の授業の一環として実施。2年生78人が市役所や病院、薬局、小学校、旅館など興味ある職種に合わせて訪問する団体を決め、グループ単位で仕事を体験した。そのうち2019年から東後畑の棚田（耕作放棄地・約6反）にハーブ苗4000本を定植して現在はミントやラベンダー、ベゴニア、カモミールなど38種のハーブを無農薬で育てている「ゆや棚田景観保存会」（事務所＝旧文洋小校舎）には15人の男女生徒が訪れた。

〈棚田のハーブ栽培を見学する高校生〉

同保存会の体験では初めに座学が行われ、副理事長の和田あいこさんが生徒にこれまでの取り組みを紹介。後畑の棚田の歴史や休耕田を利用してハーブ栽培を行うことになった経緯、失敗を繰り返してもあきらめなかった栽培への思い、棚田の無農薬ハーブを使って世界第2の評価を得たジン「オーブ」の誕生などを熱く語った。また同地に移住して棚田のハーブ栽培を手伝っている田島大幹さん（ジェラート店経営）と徳渕千絵子さん（アロマセラピスト）が自らの体験談を交えて夢や目標を持つことの大切さについて述べ、「君たちの選択肢は無限にある。その選択肢を知るためにも無限の体験をしよう」と高校生にエールを送った。

座学のあと生徒たちは和田さんらの案内でハーブを育てている農園を散策。ミントやラベンダー、ローマンカモミール、レモンバーベナー、ベゴニア、レモングラスなどそれぞれのハーブの前で立ち止まり、その特徴を聞きながら葉を摘んで匂いをかぎ分けた。「花を食べてごらん」という和田さんの呼びかけに恐る恐るベゴニアの花びらを口に入れる生徒たち。山口市徳地出身の林万一心君は「酸っぱかったけどサクランボのような味がした」と驚き、職場体験に油谷棚田のハーブ栽培を選んだことについて「長門の自然を使って働いている人に興味がある。今日の講義で地元を盛り上げたいという熱い思いやエネルギーが伝わってきた」と目を輝かせた。このあと生徒たちは和田さんらの指導で花摘みやハーブティーづくりを体験し、農作業を手伝って汗を流した。

今回行われた職場体験では、後日高校生が直接観察したことや働く人へのインタビューをもとに記事にまとめ、長門市しごとセンターのホームページ「Discover Nagato・ここにある仕事」で7月初旬から紹介される予定。同校の職場体験を企画したNPO法人つなぐの事業マネージャー・岩本絵梨子さんは「私もいろいろな人に出会ったから自己理解が進んだ。子どもたちには様々な経験をしてもらいたい。今回の職場体験が今後自分らしい人生を歩む選択肢になれば」と話している。

長門時事
2021年（令和3年）
6月18日
（毎週金曜日発行）